

J4R 期末発表・原稿 1

ヘザー・オコネル
カリフォルニア州立大学モントレイ校 3年・米国

J4R の期末発表のため、私は「嘘じゃない、フォントの話」という記事を選びました。今、その記事について説明させていただきます。

まず、最初の段落を読んでみましょう。『私たちが日々何気なく接している「文字」。実はこの「文字」、日本語だけでも千種類以上もの「フォント」があることをご存知でしょうか？「文字は性格を表す」と言われることもあります。人によって書く文字の形が違うように、印刷物やインターネット^{じょう}上で使われているフォントにもさまざまな性格や役割があります。そして同じ文章や言葉でさえ、使うフォントによって伝わり方が変わってくるのです。』

続いて、この記事は三つのセクションに分けています。

一つ目は『文字が変わればイメージも変わる！』と言います。このセクションには、フォントの例が三つあります。例を見れば、よく分かるはずです。例えば、例1の駅でよく見る一般的なフォントは、例2に比べて、あまり目立たなくて面白くではありません。なので、例1のフォントは普通の看板で使われています。一方、例2のフォントはポップのイメージで、渋谷によく似合いそうです。

次は『「フォント」にはどんな種類があるんだろう？』というセクションです。日本語には、基本的なフォントの種類が五つあります。その種類は「明朝体」や「ゴシック体」、「丸ゴシック体」、「筆書体」、「ディスプレイ書体」と言います。フォントの種類はそれぞれ性格が異なっています。例えば、「ゴシック体」はシンプルで、「筆書体」は和風の感じがあります。

最後のセクションは『5つのフォントの役割とは？』と言います。このセクションでは、フォントの特徴と役割が説明されています。例えば、「明朝体」の特徴は細い横線と太い縦線で、^{うろこ}鱗というアクセントがついています。そして、真面目で堅いイメージがあるので、教科書などの本でよく使われています。一方、「ディスプレイ書体」は特徴が決まっていなくて、目的に似合うユニークな文字です。たいてい、タイトルや目立つ言葉でよく使われています。

皆さん、よく考えてください。何かを読むとき、どんなフォントが使われているかと覚えられますか。今度、五つのフォントの種類からどんなフォントがどんな役割に使われているか、確かめてみましょう。

J4R 期末発表・原稿 2

ヘザー・オコネル

カリフォルニア州立大学モントレイ校 3年・米国

「嘘じゃない、フォントの話」という記事を選んだ理由は私の副専攻に関します。私の副専攻はグラフィックデザインやウェブデザインみたいに「コミュニケーションデザイン」という副専攻で、特にタイポグラフィーに興味を持っています。なので、タイポグラフィーについての記事を調べました。しかし、大学で英語の文字しか勉強しなかったのので、選んだ記事のおかげで初めて日本語の文字を勉強しました。

面白かった点がたくさんありますが、一番気になった点だけ説明します。それは、英語の文字と日本語の文字の似ているフォントです。この記事が言う通り、「明朝体」は真面目で、「ゴシック体」はシンプルです。英語にも、似ているフォントがあります。英語の明朝体は「セリフ」で、ゴシック体は「サンセリフ」と言います。この「セリフ」と「サンセリフ」は、日本の明朝体とゴシック体と同じように使われています。

「セリフ」は真面目で、「サンセリフ」はシンプルです。例えば、「セリフ」は読みやすいので本によく使われていて、「サンセリフ」はシンプルで遠くから見えるので看板によく使われています。

もう一つの面白かった点はこの記事の説明の方法だと思います。五つのフォントを説明した時、キャラクターも出てきました。そのキャラクターは関するフォントの特徴や役割を現したので、本当に分かりやすいと思いました。

この記事には、賛成できない点の一つしかありません。それはディスプレイ書体の役割です。この記事によると、ディスプレイ書体はカジュアルな時に使われていますが、私は真面目な時に使ってもいいと思います。ディスプレイ書体はユニークなフォントで、決まった特徴がないので、タイトルや目立つ言葉でよく使われていますが、その目立つ言葉は真面目なメッセージを伝えたら、カジュアルなディスプレイ書体はふさわしくではありません。なので、真面目でユニークなディスプレイ書体もあった方がいいと思います。